



日耳鼻医学会 FAX ニュース NO 192

平成24年8月10日 発行 (特)日本耳鼻咽喉科医学会 E-mail jimuj@jenti.or.jp HP <http://www.jenti.or.jp>
〒104-0031 東京都中央区京橋2-11-8 全医協連会館5F FAX 03-5524-5228 TEL 03-5524-5230

北部九州豪雨お見舞い申し上げます

7月に北部九州をおそった豪雨は福岡、大分、熊本に大きな被害をもたらしましたが、被害は無かったですか。心よりお見舞い申し上げます。

「九州フォーラムin熊本2012」登録受付中

9月8日(土) 午後2時半～分科会 午後6時～懇親会
9月9日(土) 午前9時20分～全体集会
分科会・全体集會会場 くまもと県民交流館パレア
懇親會会場 ホテル日航熊本
詳細は案内冊子ならびにホームページを ご覧下さい。

<http://www.kyusyuforum.com/>

8月3日以降の登録も大丈夫です。多数のご参加を心よりお待ちしております。

◎平成24年度第2回全理事会開催される

平成24年度医会長協議会は12月2日に

7月22日(日)東京の日耳鼻医学会事務所で第2回全理事会が開催され、伊東新理事長が挨拶でこれからの抱負を語った後、組織分担について協議した。また、平成24年度第1回医会長協議会は秋の学会などを鑑み、12月2日(日)に開催することとなった。理事長の挨拶の概要は以下の通り

「評価して貰える活動を行いたい」

これからの2年間、何に取り組んで行くか考えを述べたい。先ず最重要課題が会員増強であり、これには休会・退会している医会に是非とも復帰して貰えるよう全力を尽くしたい。また、未加入県へ積極的にアプローチして医会単位としての入会を勧めたい。そのためには、今年度の事業計画にも色々な具体的な事が書かれているが、それらを一つずつ実行して、活動の幅も広げて「良くやっている」と評価して貰えるようにしていきたいと思う。

具体的に、まず日耳鼻医連の時代から継続されている公立学校のレセプト調査は、現在松垣理事はじめ大勢の努力により全国から沢山のデータが集められて詳細な分析がなされて、その結果は会誌「かがみ」に報告されている。これは重要大切な事業である。これによって現在の耳鼻咽喉科開業医の現状をある程度把握できるが、もう一歩つっこんだ分析が出来ればなお一層貴重なデータになると思う。どのようにしたら良いか知恵をお借りしたい。

臨床家フォーラムであるが、今年は九州沖縄が未加入県休会県も一体となつてのフォーラムで9月に開催されることになっており、大変楽しみである。また来年は在京理事が中心となつての日耳鼻医学会が担当することになっている。次のフォーラムをどこにお願いするか、毎回のようには理事会で協議をし、これはと思う所に清水顧問始め歴代の理事長が足を運ばれて苦労されているが、引き受け手が見つからず難渋している状況が続いている。もし可能ならば2・3年先までフォーラムの担当医会が決められたらありがたいと思う。今後その方向で努力して行きたい。

会誌「かがみ」は、フォーラム特集号とレセプト調査報告を中心にして毎年3回発行されている。特にレセプト調査の報告は前述の通り貴重な資料である。今、ネットを通して色々な情報を簡単に入手出来るが、あまりにも多すぎてどれが必要な情報が判断に困ることがある。また、これらの情報からは耳鼻科が今後どういう方向に向かってゆけばよいか、何

に取り組んでゆけばよいのかも分からず、困惑している会員も多いと思う。会員が何を我々に望んでいるのか付度し、それに答える有益な情報を掲載して魅力ある会誌にしてゆきたい。これはFAXニュースも同様であるが、さらに新聞の論説あるいは天声人語などのような欄を設けて、日耳鼻医学会の考えも伝え、さらに各地の情報なども掲載して魅力ある読みやすいものにしてゆきたい。

併せて日耳鼻医学会のホームページも色々な新しい情報を提供出来るよう随時更新して、会員が楽しみながら役立つホームページにしたい。

2007年、個人会員加入のための資料として「日耳鼻医学会Q&A」を作った。こういうものがどうかどうかも含めて今後どうすれば良いか考えたい。

以上、多くの事に触れたが、今年の総会で承認された事業計画の一つ一つ着実に実行して、さらにそれらに付加価値を付けて、退会医会や休会医会から、日耳鼻医学会がこれだけ頑張っているのだからもう一度一緒に活動しようという声が出てくるような、また医会の無い県にも是非医会を作ろうという機運が出るような活動をして行きたいと思う。

疑義解釈資料(その5)6月8日厚労省保険局医療課

(問1)時間外対応加算2で求められる標榜時間外の夜間の数時間の対応について、午後を休診としている日の場合はどのような対応が必要か。

(答)当該加算を算定する診療所において、標榜時間外の夜間の数時間は、原則として当該診療所において対応できる体制が取られている必要があるが、午後を休診としている日においては、標榜時間外の数時間の対応で差し支えない。その場合、対応を行わない夜間及び深夜(午後6時から午前6時)等においては留守番電話等により、地域の救急医療機関等の案内を行うなど、対応に配慮すること。

(問148) 数種類の処方薬のうち、1種類だけでも一般名で処方されていれば他の処方薬が銘柄名で処方されていても算定できるという理解で良いか。

(答) そのとおり。ただし、後発医薬品のある先発医薬品及び先発医薬品に準じたものについて一般名処方した場合に限り算定できる。従って、後発医薬品の存在しない漢方、後発医薬品のみ存在する薬剤等について一般名処方した場合は算定できない。

「疑義解釈資料の送付について(その1)」(平成24年3月30日付事務連絡)を訂正



GlaxoSmithKline 生きる喜びを、もっと
Do more, feel better, live longer

定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤

処方せん医薬品(注意-医師等の処方せんにより使用すること) 薬価基準収載

アラミスト[®] 点鼻液27.5μg
56噴霧用

Allermist[®] 27.5μg 56metered フルチカゾンフランカルボン酸
Nasal Spray エステル点鼻液

※「効能・効果」、「用法・用量」、「用法・用量に関連する使用上の注意」、「禁忌を含む使用上の注意」等については添付文書をご参照ください。

製造販売元(輸入)
グラクソ・スミスクライン株式会社 グラクソ・スミスクラインの製品に関するお問い合わせ・資料請求先
TEL: 0120-561-007(9:00~18:00/土日祝日および当社休業日を除く)
〒151-8566 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-6-15 GSKビル FAX: 0120-561-047(24時間受付)

2010.5